

ソフト施策

- ・ 連絡運賃制度 (2012年度から導入済み)
- ・ ダイヤ改正 (乗入れ便の増加による高頻度運行化)
- ・ 福井駅前商業施設連携割引
- ・ おとえきプロジェクト (田原町駅活性化プロジェクト)



Power of Design

デザインの力と役割

新しい車両、新しいサービスを導入するにあたり、今まで鉄道を使っていなかった方に知ってもらい、使ってもらうにはという視点で車両や駅舎のサインデザインを展開しました。

- ✓ 圧倒的車社会の中で、公共交通施策の社会的認知へのドライバー
- ✓ 未来への希望を色と形でイメージ化
- ✓ 目に見えないプロジェクトの価値観、存在感、鉄道の役割をシンボル化



導入したLRV車両は結果としてとてもかわいらしい車両に出来上がり、福井鉄道のLRV車両FUKURAMと合わせて、「希望、ふくらむ」というキャッチコピーでPRしました。



プロジェクトの拠点となる田原町駅には、福井県産の杉を使ったあたたかい雰囲気駅の駅舎に、吹き出しをモチーフにした親しみのあるサインを展開しました。

Project Result So Far

これまでの成果 (2016.3.27 サービス開始 ~ 2017.3.31まで)

サービス開始から利用者は確実に増えており、街に走る新しい車両は子供達にも人気があり、鉄道を中心としたイベントも好評を得ています。最終目標である「より質の高い生活」の実現に向けて、今後も各施設の整備やサービスの充実を進めていくための布石となりました。

両鉄道連絡きっぷ利用者数の伸び



鉄道全体の通勤定期利用者の伸び

えちぜん鉄道 61万人/年 → 66万人/年 **9%UP!**

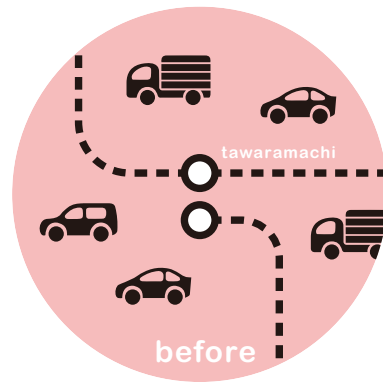
福井鉄道 32万人/年 → 34万人/年 **8%UP!**

通勤定期増加分は自動車通勤からの転換と考えられる

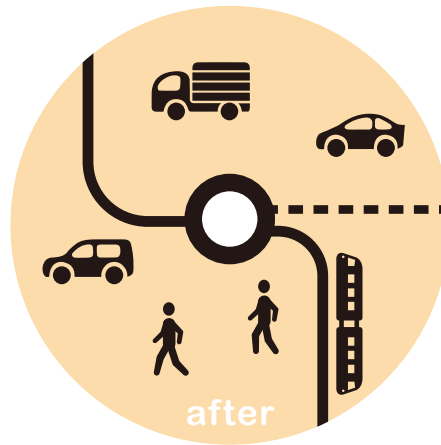


Changes for the Future “De-Motorization”

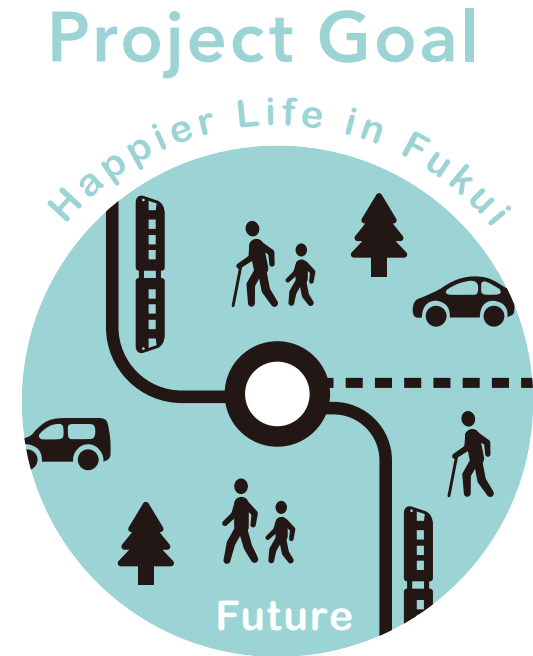
未来に向けた変化 ～自動車中心から、人間中心の都市構造へ～



自動車に依存した
地方都市構造



持続可能でスマートな
人間中心の都市構造へ



「幸福度日本一」福井ならではの
質の高い生活の実現へ

本プロジェクトでは、えちぜん鉄道と福井鉄道、鉄道と軌道の接続に伴う相互乗り入れを実現し、郊外から中心市街地へのレールによるダイレクトアクセスを可能にしました。実現のための鉄道施設の整備、LRV車両（ki-boとFUKURAM）の導入などのハード面に加え、旅客利便性向上のための乗継割引・ダイヤ調整や、駅を拠点としたまちづくりなどサービス

の改良も行い、利用者の増加などの成果がでています。自動車に依存した地方都市構造は、中心市街地の衰退や行政コストの増大などの問題点が顕在化しています。自動車中心から、人間中心の都市構造へと、未来へ向けた変化を官民一体となって進めていくことで、より幸せな、福井ならではの質の高い生活の実現を目指しています。